

進んで活動する姿

続けて最後までする姿

目的・目標を持って活動する姿

友だちと学び合う姿

深く考える姿

実践事例 小学部

『自分や他人の行動についての理由を話して、
ユーチューバーになろう』



1. 児童の実態と望む姿

- ・小学部5年生男子(4年生1名、5年3名、6年生2名の計6名の学習グループ)
- ・自分がしたことについて、「いつ」「どこで」「誰と」「何を」「気持ち」の視点を入れて話す。
- ・自分が遊びや係仕事など、日常的にしている行動の理由を問うと、問いに応じて答える。
- ・他人がしたこと理由を問うと、「わからない」などと言う。

そこで本題材では以下の望む姿を設定した。

→友だちと学び合う中で、行動とその前後の状況の変化とつながりに目を向けて、日常生活で行動した理由を問われたときに答えることができるようになってほしい

2. 教材の概要 『ユーチューバーになろう』

- ・児童の興味や関心の高い『ユーチューブ』を取り上げて、話したことをiPadで撮影、編集し、それを再生して自分や友だちの話している姿を振り返る。

3. 授業のポイント

ポイント1 自分や他人がしたことについての理由を話すための、状況の変化がわかるような教具と、その使い方の工夫について

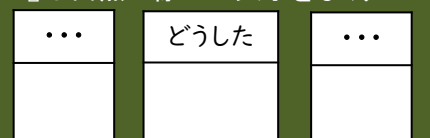
【理由を話すために、状況の変化とそのつながりに目を向けるには、どうしたらよいか？】

- ①行動とその前後の状況の写真と『どうカード』(教具)を提示し、それぞれを時系列に並べる活動に取り組む。
- ②子どもの理解に応じて、『どうカード』を白黒にしたり、文字をなくしたりして、段階的に手がかりをなくしていく。
- ③題材が進むにつれ、行動と前後の状況の写真を、「教師が選ぶ→子どもが選んで操作する」に移行する。

【二次前半】 行動した写真を教師が選んで操作し、『どうカード』には色を使う



【二次後半】 行動した写真を教師が選んで子どもが操作し、『どうカード』は白黒で徐々に文字をなくす



【二次終わり～三次】

複数の行動とその前後の状況の写真の中から、子どもが写真を選んで操作する
『どうカード』なし

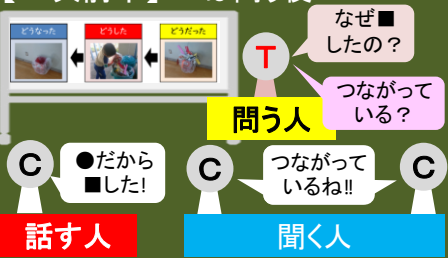
授業構想チェックシート 内容チェック 学習活動についての工夫②

ポイント2 友だちと学び合いながら、学習したことの理解を深めるための学習活動の工夫

【友だちが行動についての理由を話すときでも、行動とその前後の状況のつながりを理解できるようにするには、どうしたらよいか？】

- ・発展場面で「理由を問う人」「理由を話す人」「2人のやりとりを聞く人」の役割を設定し、交代しながら活動に取り組む。
- ・「理由を問う人」だけでなく「理由を話す人」と「2人のやりとりを聞く人」も行動とその前後の状況のつながりを確認する。
- ・教師が「理由を問う人」→「2人のやりとりを聞く人」になり、最終的には見守るようにする。

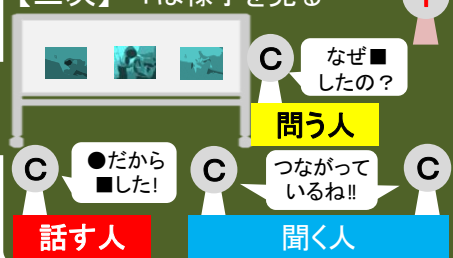
【二次前半】 Tは問う役



【二次後半】 Tは聞く役



【三次】 Tは様子を見る



授業構想チェックシート 内容チェック 学習環境:役割の工夫②③